

整理 No.	9	分類	コンクリートがれき，残渣（ふるい下）	
会 社 名	株式会社大林組 生産技術本部技術第二部			
担 当 者	森田晃司			
連 絡 先	TEL	03-5769-1302	FAX	03-5769-1547
	E-mail	morita.kouji@obayashi.co.jp		
技術の名称	アップサイクルブロック			
概 要 (150 字程度)	震災で発生した災害廃棄物のうち，リサイクルできない混合廃棄物（以下，がれき残渣）をセメントで固化し，環境安全性を確保した盛土用資材(アップサイクルブロック)として活用する技術です。 がれき残渣の最終処分量を減少させるとともに，被災地の早期復興を図ることができます。			
技術登録等	無し			
技術の概要	■ 概要図  【がれき残渣の例（最大粒径 150mm 程度）】 セメントによる 固化処理   【アップサイクルブロック】			
次頁 あり・なし				

次頁

あり・なし

技術の概要
(つづき)

■ 特長

● がれき残渣の最終処分量を削減

- ・既設最終処分場の残存容量への負担を軽減することができます。
- ・最終処分場の拡張や新設に要する時間・コストを削減できます。

● 環境に安全な建設資材として再生

- ・がれき残渣を固化し，有害物質を製品から溶出させないので，周辺環境に悪影響を及ぼしません。

● 安定した品質を確保

- ・不均一ながれき残渣を固化材と混練し締め固め処理を施すことで，品質のばらつきを抑制します。

■ 寸法

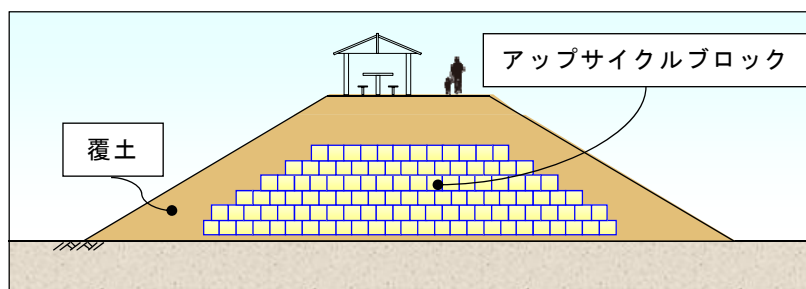
- ・大量生産する際に必要な製造能力と利用者の復興計画に応じて決定します。（750mm×750mm×850mm～900mm×900mm×900mm 程度であると，重量は約 1.0～1.5ton です。）

■ 強度

- ・目標圧縮強度 1.0N/mm²（材齢 28 日）

■ 適用例

- ・避難高台や公園の盛土材，道路の盛土材，沈下した地盤の嵩上げ材，防潮堤など



【避難高台・公園への適用イメージ】

■ 開発体制

- ・本技術は，(財)先端建設技術センター，(株)大林組，鹿島建設(株)，(株)熊谷組，清水建設(株)，大成建設(株)の 6 者で開発を進めています。
- ・開発の一部は，平成 23 年度補正予算建設技術研究開発制度（震災対応型技術開発公募）による補助金を受けた者と共同で実施しました。